

5 意識調査

(1) プレテストとポストテスト及び意識調査実施期日と対象人数

資料1 ポストテスト

選択学習 ポストテスト ( )年( )組(男 女)

これまで学習してきた選択学習について下の1～40の項目に答えなさい。答えは、次の5段階の中でもっとも近いものを選び、○をつけなさい。

5 5段階中最も近いものを選び、○をつけなさい。

4 4段階中最も近いものを選び、○をつけなさい。

3 3段階中最も近いものを選び、○をつけなさい。

2 2段階中最も近いものを選び、○をつけなさい。

1 1段階中最も近いものを選び、○をつけなさい。

選択希望順位

選択教科及びコース

感想

ねらい

ねらい	質問項目	5	4	3	2	1
S1 意欲的に学習する態度を育成する。(学習態度)	1 毎時間、学習の目的を定め、学習に取り組んできました。	5	4	3	2	1
	2 学習の目的を定め、学習に取り組んできました。	5	4	3	2	1
	3 学習の目的を定め、学習に取り組んできました。	5	4	3	2	1
	4 学習の目的を定め、学習に取り組んできました。	5	4	3	2	1
	5 毎時間、地道な努力を怠りませんでした。	5	4	3	2	1
S2 学習に対する興味・関心を育成する。(興味・関心)	6 学習の面白さを意識して学習しました。	5	4	3	2	1
	7 学習の面白さを意識して学習しました。	5	4	3	2	1
	8 学習の面白さを意識して学習しました。	5	4	3	2	1
	9 学習の面白さを意識して学習しました。	5	4	3	2	1
S3 広く社会に目を向けさせる。(社会への関心)	11 新聞や雑誌など、社会に関する記事に興味を持ちました。	5	4	3	2	1
	12 TVやラジオなど、社会に関する番組に興味を持ちました。	5	4	3	2	1
	13 社会の動向に興味を持ちました。	5	4	3	2	1
	14 社会の動向に興味を持ちました。	5	4	3	2	1
	15 これらの社会動向に興味を持ちました。	5	4	3	2	1
S4 多面的な見方をし、学習の成果を高める。(学習の仕方)	16 課題(テーマ)を追究するだけでなく、多面的な見方をしました。	5	4	3	2	1
	17 多面的な見方をし、学習の成果を高めることができました。	5	4	3	2	1
	18 多面的な見方をし、学習の成果を高めることができました。	5	4	3	2	1
	19 多面的な見方をし、学習の成果を高めることができました。	5	4	3	2	1
S5 自主的・主体的に学習する態度を育成する。(自主的・主体的)	21 毎時間の学習が主体的に行われました。	5	4	3	2	1
	22 毎時間の学習が主体的に行われました。	5	4	3	2	1
	23 毎時間の学習が主体的に行われました。	5	4	3	2	1
	24 毎時間の学習が主体的に行われました。	5	4	3	2	1
	25 毎時間の学習が主体的に行われました。	5	4	3	2	1
S6 学習の個別化を図り、一人一人の個性を生かす。(個別化・個性化)	26 個人やグループで学習する際に、個性を生かすことができました。	5	4	3	2	1
	27 個人やグループで学習する際に、個性を生かすことができました。	5	4	3	2	1
	28 個人やグループで学習する際に、個性を生かすことができました。	5	4	3	2	1
	29 個人やグループで学習する際に、個性を生かすことができました。	5	4	3	2	1
S7 友人と一緒に学習する利点に気付かせる。(人間関係)	31 学習を進める上で、友人の力を借りることができました。	5	4	3	2	1
	32 学習を進める上で、友人の力を借りることができました。	5	4	3	2	1
	33 グループで学習する際に、友人の力を借りることができました。	5	4	3	2	1
	34 グループで学習する際に、友人の力を借りることができました。	5	4	3	2	1
	35 グループで学習する際に、友人の力を借りることができました。	5	4	3	2	1
S8 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直す。(見直し)	36 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直すことができました。	5	4	3	2	1
	37 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直すことができました。	5	4	3	2	1
	38 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直すことができました。	5	4	3	2	1
	39 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直すことができました。	5	4	3	2	1
40 これまでの自分の学習の仕方を見直し、学習の仕方を見直すことができました。	5	4	3	2	1	

資料2 意識調査実施期日と対象人数

プレテスト	平成5年6月実施(研究協力員の中学校で実施)
ポストテスト	平成5年10月実施(研究協力員の中学校で実施)
対象人数	第2学年 1732人
	第3学年 1958人

## 研究概要

### (2) 意識調査の結果

これまでの研究から表11にある8つの観点について5項目、計40項目のプレテストとポストテストを実施した。

選択教科の学習活動が開始される時にプレテストを実施し、学習活動が終了した時にポストテストを実施した。しかし、学校によっては通年で選択教科を実施している学校もあり、調査対象の全ての学校で学習活動が終了したわけではない。

図1は、第2学年の第1希望選択者と第2希望選択者のプレテストを比較したものである。ほとんどの観点で第1希望選択者が上回っているが、S3の社会に対する関心・態度は同じ結果になっている。これは学習と社会に関連を見い出すことが少ないと思われる。また、S8は学習の見直しであるが、第2希望選択者は第1希望に入れなかったことから学習に対する考え方を見直す方向に気持ちが動いたと考えられる。

図2は第3学年の第1希望と第2希望選択者のプレテスト結果の比較である。第2学年と同じような結果である。やはり第1希望選択者が高い値を示している。

図3は第2学年と第3学年のプレテストを比較したものであり、第3学年が第2学年より高い値を示している。ここから選択教科の学習内容について興味・関心をもっていることが

表11 プレ及びポスト自己評価の観点

プレ及びポスト自己評価の観点			
S1	学習態度	S5	自主的取り組み
S2	学習に対する興味・関心	S6	学習の個別化
S3	社会に対する関心・態度	S7	人間関係
S4	学習の方法	S8	学習の見直し

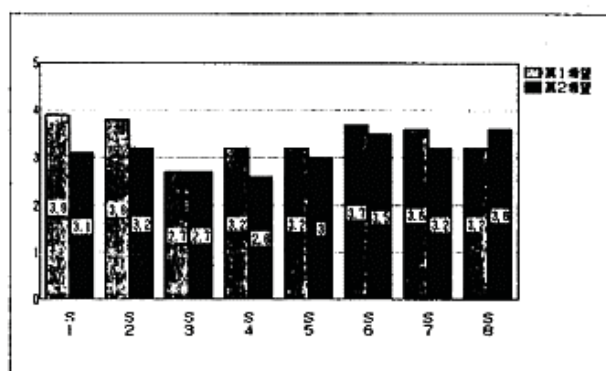


図1 第2学年プレテスト結果

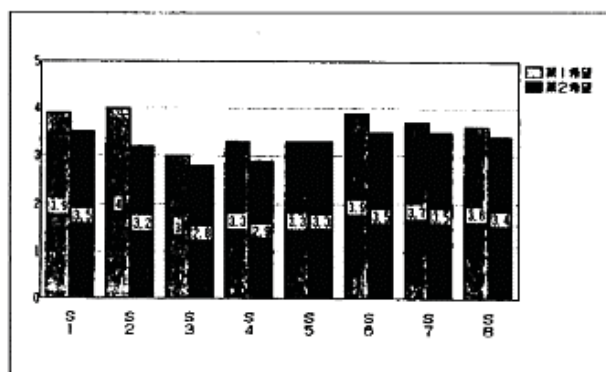


図2 第3学年プレテスト結果

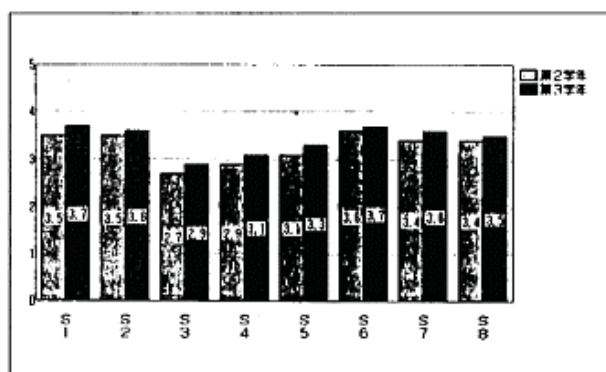


図3 第2学年と3学年のプレテスト結果比較

考えられる。

図4は第2学年のプレテストとポストテストの比較である。S1, S3, S4, S5の項目でポストテストが高い値を示している。このことは、新しい学習に対する意識が高まっていくことを表していると思われる。しかし、その他の項目では変化が見られなかった。これは、選択教科の学習が個人やグループでの学習になり、従来の学習形態と異なっていることが原因ではないかと考える。

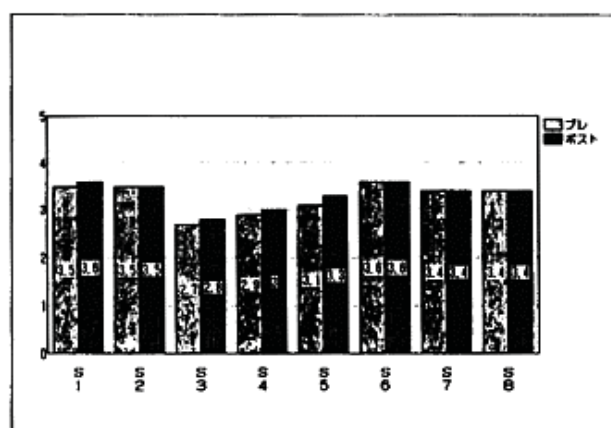


図4 第2学年プレ及びポストテストの比較

図5は第3学年のプレテストとポストテストの比較である。第2学年と同じような傾向が見られるが、S8で値が下がっている。これは、ポストテストを実施した時期との関係であると思われる。実施した時期は、受験及び進路決定の時期に当たり、学習に対して知識・理解の習得を重点とした考え方が多くなっていたと思われる。しかしながら、

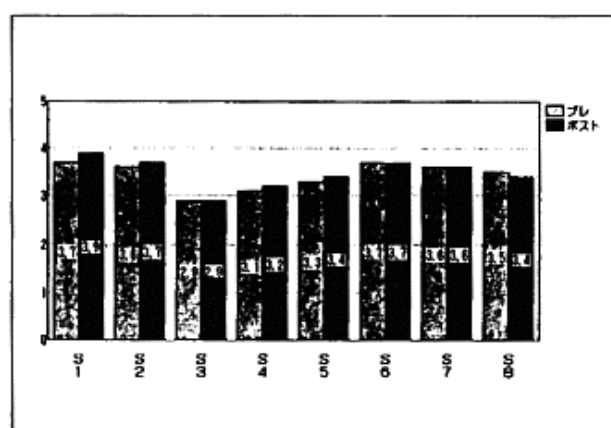


図5 第3学年プレ及びポストテストの比較

各学年に共通して言えることは、S1の学習態度の項目が他の項目よりも高い値で変容していることである。これは、生徒が選択教科は興味・関心がもてる学習ができると考えていることにほかならない。

表12 第1希望者と第2希望者のポストテスト感想の比較 (%)

	第2学年			第3学年		
	第1希望	第2希望	全体	第1希望	第2希望	全体
おもしろかった	16.3	9.8	15.5	11.8	7.0	11.3
楽しかった	39.0	27.5	37.5	38.9	32.6	38.3
技術・力がついた	4.9	3.9	4.8	8.4	4.3	4.9
もっと努力したい	3.4	3.9	3.5	4.5	9.3	4.9
おもしろくなかった	8.0	17.6	9.3	5.8	13.9	6.8
つまらなかった	2.3	2.0	2.3	2.1	7.0	2.6
よくわからなかった	4.0	5.9	4.3	5.0	16.3	6.1
その他	22.1	29.4	22.8	23.5	9.6	25.1



## 研究概要

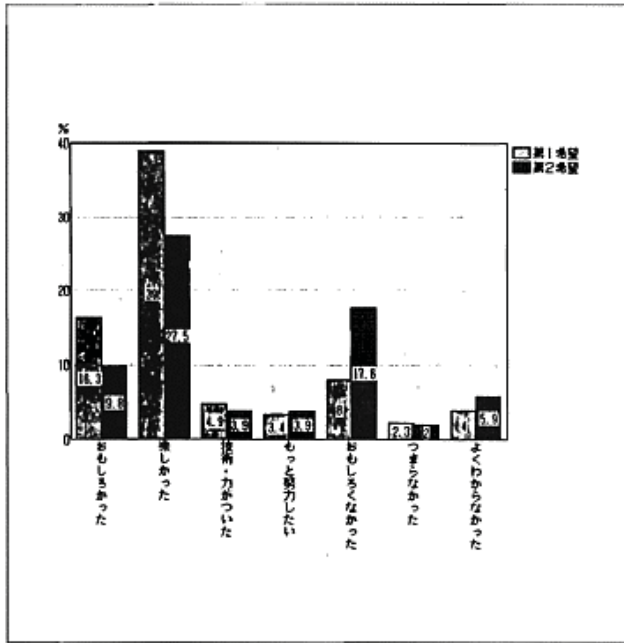


図6 第2学年ポストテスト感想比較

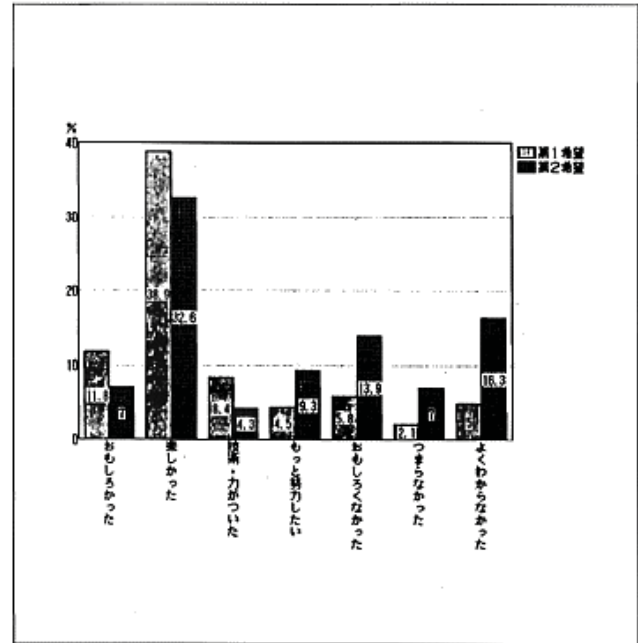


図7 第3学年ポストテスト感想比較

表12は選択教科の授業が終了して実施したポストテストの感想文を類別したものであり、図6及び図7はそれらをグラフ化したものである。第2学年と第3学年共に同じような傾向にあるり、第1希望で選択できた教科等を学習できた生徒は、「おもしろかった」、「楽しかった」等が多く、第2希望の教科等になった生徒は、「おもしろくなかった」、「よくわからなかった」等と記入しており、第2希望者の全体の40%以上いた。しかし、第2希望者の中にも「楽しかった」と記入している生徒が多く含まれていることは、その生徒が第1希望の教科やコースではない第2希望の教科やコースで、自分に合った学習内容や学習目標が見付けられたことを示している。

### 6 おわりに

これまで研究してきたことから、選択教科の開設には、生徒が自主的・主体的な取り組みができるような教科やコースの設定が必要であり、学習形態などの工夫をしなければならないと考えられる。また、生徒が選択教科の中で学習目標や学習計画を設定する場合、達成可能な目標や実行可能な計画が作成できるように配慮しなければならない。生徒の多様な興味・関心や特性等に応じて、希望する選択教科やコースが設定できるようにし、選択履修の幅の拡大をするとともに、日常の指導の中で生徒の選択能力の育成を図っていかなければならないと考える。学校の側の積極的な取り組みとともに、この選択履修の幅の拡大がうまく機能すれば、生徒が自分の個性等を正しく判断し、生活に必要な情報を選択できる能力を育成できると考える。